

すべての道はローマンに通ず

Corporate Profile

会社案内

D 道路工業株式会社

D 道路工業株式会社

〒064-8560 札幌市中央区南8条西15丁目2-1
TEL (011)561-2251 / FAX (011)513-2119
Website <http://www.dorokogyo.co.jp/>



DOROKOGYO CO., Ltd.



誠実

社訓の「誠実」をここに育み

道路建設は社会基盤そのものです。社会基盤の整備を通して、社会に貢献していくことが当社の「使命」であります。私達は、社訓である「誠実」を心に育み、社会基盤整備に従事いたします。その積み重ねの一つひとつが、お客様との信頼関係を築くこととなり、地域の発展や生活環境の改善に繋がると考えております。

北海道の「道造り」と共に

当社の創立は、まだ札幌にも舗装道路が少なかった1949（昭和24）年のことです。今日まで北海道の大地でマチとマチ・人と人を繋ぐ社会基盤整備の中心となる「道造り」に携わって参りました。

北海道の「道造り」の草分けであった当社は、各地に営業所・工事事務所を設置し、都市を結ぶネットワークを構築しました。さらに、技術試験所・環境管理事務所を構え、耐久性に優れた安全で快適な道造りや寒冷地舗装の技術向上を目指し、日々研究努力を重ねております。これからも「誠実」に地域生活基盤の整備を通して社会に寄与して参ります。

道路工業株式会社 代表取締役社長

中田 隆博



01 アスファルト舗装



一般道路

国道、道道などの幹線道路網の整備から、暮らしに密着した生活道路に至るまで、あらゆるニーズに適応した道路の舗装を手がけています。

施工例



一般国道334号浦幌町
昆布刈石舗装工事



一般国道36号札幌市月寒
舗装修繕外一連工事



高速道路・高規格幹線道路

広域分散型の広大な北海道において、各地に点在する地域生活経済圏の中核都市間を効率的にネットワークし、安全に高速走行ができる高速道路、高規格幹線道路の整備に貢献しています。

施工例



道央自動車道札幌管内舗装補修工事



日高自動車道日高町福満舗装工事



空港

空港の舗装は、道路に比べて舗装幅員が非常に広く、また、縦横断の勾配も極めて少ないため、高い施工精度が要求されます。当社は空港整備の実績も数多く持っています。

施工例



女満別空港整備事業滑走路改良工事



中標津空港整備事業滑走路改良工事

02 コンクリート舗装



コンクリート舗装は、主にトンネル内道路に使用されていますが、アスファルト舗装に比べて高耐久であり、維持・修繕を含めたライフサイクルコストを低減できることから、最近では一般道路（明かり部）への採用も検討されています。

施工例



深川留萌自動車道留萌市
藤山舗装工事



北海道横断自動車道白糠町
底路トンネル舗装工事

03 維持・除雪



道路を維持させるとともに車両を安全に通行させるには、道路メンテナンスが非常に重要です。当社は、国道の路面補修、清掃、除雪などを含めた年間維持除雪工事に取り組んでいます。

市域面積が広い札幌市の道路においては、地域によって降雪量など気象状況に違いがあるため、地域・市・除雪業者と連携し、地域に密着した除排雪を目指す「マルチゾーン除雪」を行っています。

施工例



一般国道12号江別市
道路維持除雪外一連工事



豊平区西地区
道路維持除雪業務



04 アスファルト混合物製造



全道各地にプラントを保有し、市町村、NEXCO、各振興局、北海道開発局等の役所発注の道路工事から民間工事全般と幅広い分野の工事にアスファルト混合物を供給する目的で、操業しています。また、環境面も配慮し、各地の破碎設備工場にて再生アスファルト混合物用再生材を製造しています。

アスファルト合材再生プラント

当社は1988年に札幌に再生プラントを建設し、アスファルト廃材のリサイクルをスタートしました。このプラントは当社施工分だけでなく、札幌市からの委託を受けて市内の各種公共工事で発生する廃材も受け入れているほか、一般財団法人 札幌市下水道資源公社からも再生合材の生産・出荷業務を委託されている公共性の高いプラントです。

拠点紹介



ライラックアスコン(札幌市)



洞爺アスコン(豊浦町)



カムイアスコン(当麻町)



帯広合材工場(音更町)



知床アスコン(斜里町)



美幌アスコン(美幌町)

05 地盤改良事業

低品質な発生土や軟弱な地盤に、セメント系や石灰系の改良材を混合して化学的に性状を改善する工事を行っています。道路路床や河川堤防の基礎地盤・築堤材料、泥炭地盤の改良および構造物基礎地盤の深さ10m程度までの改良などがあります。

工法紹介



ロータリー式スタビライザ工法

ベースマシンはバックホウで、混合部にツインヘッドの回転翼を取り付け攪拌混合を行う工法です。現場条件により防塵対策が必要となります。小規模工事に適します。



自走式スタビライザ工法

国土交通省標準工法であり、60cm以下の混合機と100cm以下の混合機を使用します。現場条件により防塵対策が必要となります。大・中規模工事に適します。



バケット式スタビライザ工法

ベースマシンはバックホウで、バケット内の回転翼により攪拌混合を行う工法です。現場条件により防塵対策が必要となります。小規模工事に適します。



自走式土質改良プラント(リテラ)工法

自走式土質改良機(リテラ)を使用する工法であり、固定式プラントに近い構造を持った改良機内で固化材と土砂を混合するため、安定した改良土を製作することができます。密閉された混合部及びセメントサイロの使用により、防塵の発生を最小限に抑えることができます。大・中規模工事に適します。

※自走式土質改良機による泥炭(高含水有機質土)改良工法
NETIS登録No: HK-110028-A



泥上スタビライザ工法

左右に軽金属の躯体を特殊リングで巻いた履帯式のポンツーン(浮船)を装備したバックホウを使用し、泥状土の改良を行う工法です。接地圧が小さいため軟弱地盤及び冠水上での施工も可能です。現場条件により防塵対策が必要となります。河川・湖沼工事に適します。



WILL (ウィル) 工法

バックホウタイプベースマシンの先端に取り付けた2タイプのリボンスクリュー型攪拌翼よりスラリー状の固化材を注入しながら攪拌混合する工法であり、軟弱な粘性土地盤はもとより、N値30を超える締まった砂質土地盤・砂礫地盤にも対応可能です。改良深さ10mまでの中層改良に対応できます。

※中層混合処理「WILL工法」(スラリー揺動攪拌工法)
NETIS登録No: QS-090004-V

WILL (ウィル) 工法協会: <http://www.will-koho.com/>



技術試験所

積雪寒冷地である北海道に適した舗装材料を開発すべく、当社独自の研究施設として1960年(昭和35年)に「材料試験所」を設立しました。社員の教育・研修機関の役割を担うとともに、時代の要請に沿う新たなニーズや、積雪寒冷地のさまざまな課題に応えるべく研究開発を重ねてきました。

近年では、低騒音舗装や中温化などの環境配慮型の舗装材料、また、舗装の長寿命化に関する研究に取り組んでいます。



主な試験機器



マーシャル安定度試験機



ジャイレトリー・コンパクタ



ホイールトラッキング試験機



ラベリング試験機



DFテスター



CTメータ

環境管理事務所

ハイレベルな技術を支える頭脳のひとつがこの環境管理事務所。メンテナンスだけでなく、永年にわたる現場経験から得られたノウハウを生かした舗装用機械の開発・製造まで行っています。

昭和38年 機械加工・整備工場として「機械工作所」を建設

昭和39年2月 認定工場を取得

昭和54年1月 対策車変更 大型特殊自動車に限定

平成12年4月 環境配慮型機械への転換期を迎え、部署名「機械工作所」改め「環境管理事務所」とする。



保有機械



アスファルトフィニッシャー13台



タイヤローラー5台



マカダムローラー3台



モーターグレーダー8台



タイヤショベル16台



路面ヒーター14台

機械整備、製作・加工

現場の作業効率を向上させるための機械設備及びその他付属品の製作・加工を行っています。また、アスファルト舗装の品質を確保するための製品の製作にも取り組んでいます。

- ・混合物品質確保用保温箱
- ・自動ジョイントタック装置
- ・路盤用ブルの付属品等



— 環境への取り組み

人間社会にとって必要不可欠なインフラ整備である道路建設ですが、それは同時に自然からかけがえない資源を借りることもあります。当社では少しでも自然に“お返し”をしていこうと考え、環境を守るための取り組みを導入しています。その取り組みのひとつとして、荒廃した山林を健康な優良林に蘇らせることを目的に1978年から森林整備事業を始めました。



森林間伐

檜山管内の今金町と後志管内の留寿都村に社有林を持ち、計画的な植林・育林を行っています。クマ笹が生い茂る原野に苗を植えるところからスタートして、木の成長を助ける下刈り・除間伐・害虫駆除など、一本一本に愛情を注いでいます。



J-VERプロジェクト

当社では環境省が創設したオフセット・クレジット（J-VER）制度に取り組み、平成25年3月13日に認証を受けました。この制度のクレジットを活用することで、現在実施してる社有林の森林整備をより一層推進することができます。

オフセット・クレジット（J-VER）制度
<http://www.j-ver.go.jp/>

北海道カーボン・アクション・フォーラムへの参加

カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動で排出されるCO₂（カーボン）等の温室効果ガスについて、まず排出量の削減を行い、それでも排出される温室効果ガスを他の場所での排出削減量や森林吸収量を用いて埋め合わせ（オフセット）する活動のことです。当社では、このカーボンオフセット活動及び資源豊かな北海道で創出されたクレジットの活用を促進するために設立された「北海道カーボン・アクション・フォーラム」に参加しています。

「北海道カーボン・アクション・フォーラム」
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/tot/carbonforum.htm>



**HOKKAIDO
CARBON CREDIT**

©北海道カーボン・アクション・フォーラム

道路工業株式会社は、社有林で実施した間伐促進型森林吸収プロジェクトにより北海道産のクレジットを創出しています。

